

2014年(平成26年)10月27日(月曜日)

SFSS

山崎
理事長

健康リスクで講演 日添協メデアフォーラム



山崎毅理事長

食の安全と安心を科
学する会(SFSS)
の山崎毅理事長は15
日、東京・大手町のサ
ンケイプラザで開かれ
た日本食品添加物協会
主催の第33回メデア

フォーラムで「食品中
の健康リスクの大小が
イメージできるか」と
題して講演した。一昔
前は微生物汚染や化学
物質汚染が、健康リス
クが大きいとされてい
たが、衛生管理体制も
飛躍的に向上し、今の
日本では「食品成分そ
のものによる健康リス
クが最も高い」と思わ
れる。塩分過多食品の
摂取による生活習慣病

発症はその一例で、薬
の副作用同様食品摂取
も毒になる可能性がある
。ただ、発がん物質
が含まれる天然食品に
は、抗発がん物質も含
まれるため、一面だけ
を見てはいけない、と
警鐘を鳴らした。

また、消費者のリス
ク情報認知の特徴とし
て「安全か危険かの二
者択一」で、飽食時代
で、食が多様化してい
るために、狂牛病時に
牛肉を食べるような危
険な選択肢を選ぶ必要
がなくなっている。不
安を助長する因子とし
ては①恐ろしさ②未知
性③災害規模——の三
つがある。与えられる
情報が正しいか否かも
大切だが、情報源が信
頼できるかも重要だと
いう。

情報管理は行政や企
業が、評価は専門家か、
発信は口コミやマスコ
ミを介して伝わること
が多い。特にマスコミ
が情報を伝える場合①
報道スタイルがセンセ
ーショナルで社会への
影響が大きい②視聴率
や発行部数で存続して
いるため、思い込みで
報道している場合もあ
る③専門家から取材し
た報道をするため、市
民から信用されやすい
が科学レベルが低く、
話をうのみにしている
ことも多い、などの特
徴がある。

食の安全に関わる報
道では「恐ろしさ因子」
や「未知性因子」を強
調すると風評被害につ
ながる。人体への健康
影響を数値化して分か
りやすく伝える必要が
ある。十分な科学的デ
ータを産官学から集積
した上で総合的に市民
への健康影響を優先し
て報道すべきだとい
う。「食の安心」は社
会全体でつくり上げる
もので「消費者の不安
をあおるような情報発
信はただだされるべき
だ」と締めくくった。

(江端哲也)